



第133号 (季刊)
令和2年1月
田中野田町内会

<http://townweb.e-okayamacity.jp/tanakanoda/>



2020 年頭にあたり

町内会長 和氣 茂

あけましておめでとうございます。

皆様には、ご家族で輝かしい新年をお迎えのこととお慶びを申し上げますと共に、平素からの町内運営にもご理解とご協力を賜り心から感謝申し上げます。

＜自主防災の見直し＞

さて、町内会では、現在の防災組織を見直し、「自主防災組織」として、岡山市に再届出を行い本年の4月から活動できるように進めております。

一昨年7月の西日本豪雨災害では倉敷の真備地区に於いて過去にない甚大な災害に見舞われ、今保、久米地区でも多くの被害家屋がありました。又、昨年は九州の佐賀県をはじめ台風15号・17号により、関東、東北地方に燦々たる被害をもたらしました。このような被害による減災対策の観点から、各自治体や各市町村からの推奨もあり、各単位町内会から「自主防災組織」の新たな結成や、既存組織の見直しが高まっています。



＜今回見直した自主防災組織の要点＞

①町内役員主体の組織メンバー以外に、町内会の各組から1名（男性）、すなわち9名の防災委員を新たに設ける。この仕組みにすることによって、町内会役員理事の2年毎の交代による組織の停滞が軽減されと考えるものです。

災害時には防災委員といえども、「自助」を最優先にしてもらい、そして「共助」の精神で非常時の任務にあたっていただく。

②非常時に優先される活動として避難情報の伝達など他に行うことはありますが、外部情報、現地情報をもとに、「一人暮らし等の要支援者」の方の避難場所への誘導が優先されるべきではないか、と考えます。

③日常の活動として避難訓練や、防災マップの作成等がありますが、岡山市からの助成金などにより、発電機、ヘルメット等の防災資機材を備付け、田中野田2号公園に防災機庫を設置し、これらの資機材を保管するように準備を進めております。

この紙面をお借りしまして、自主防災見直しの概要をお知らせさせて頂きました。

＜今年は、日本を熱くする東京五輪の年＞

日本人女子ゴルファーとして、岡山市出身の「渋野日向子」選手。42年ぶりに海外ツアーで優勝し「スマイル・シンデレラ」として一躍にして時の人となった。今年の大目標に五輪出場を掲げている。

又、岡山天満屋女子陸上の「前田穂南選手」、さらに、環太平洋大学 女子柔道で「素根輝選手」の二人が五輪出場を内定させている。

どうか、日本はもとより、地元岡山を笑顔と勇気で

元気にしてもらいたい。

